

学校・地域の信頼による支え合い

～学校のニーズに応えてこそ、その真価が！～



むつ市川内地区学校支援地域本部 担当者：西田 裕昭／第一川内小学校 コーディネーター：春藤 千秋

学校や地域の概要

むつ市立第一川内小学校は、明治6年第3中学区川内小学校として創立され、明治43年には校歌が制定された歴史と伝統のある学校です。

恵まれた環境の中、地の利を生かした様々な体験活動を地域の方々の全面的な支援のもと実施しています。住民の教育に対する意識が高く、もともと学校に対して惜しみない支援をしてきた地区です。

わが校のボランティア活動

平成12年当時の校長から、公民館で実施していたサークル活動の内容を学級の子どもたちを相手に行なってほしい旨の相談がありました。

学校に講師（ゲストティーチャー）を招いて、川柳教室、手話教室、読み聞かせ、音楽、陶芸、絵画、サケの稚魚放流、俳句教室等を行なってきました。

このゲストティーチャーが発展して、現在では、教育ボランティア、給食ボランティア、環境ボランティア、安全ボランティアの形が形成されました。

コーディネートの実際

第一川内小学校には、学校支援ボランティア＜せきれい会＞という主に教育ボランティア活動をするサークル団体があります。

そのメンバーが中心となり、自主的活動のもと学校側からの要請に合わせて人材に関する情報提供が行なわれ、コーディネーターとの打ち合わせや学校側との詳細な打合せの後、正式な依頼へと進んでいます。

担当者・コーディネーターから一言

学校支援ボランティア＜せきれい会＞はPTAではなく地域住民であり、あくまでも自主的活動のもと、守秘義務の厳守など基本理念をしっかりとっているため、信頼できる仲間として大変に心強く思っています。

わが校の主な活動

＜教育ボランティア＞はコース別学習の丸つけ（算数、国語）やクラブ活動、各種教室（絵画・俳句・習字・陶芸・音楽・川柳・読み聞かせ・手話・リズム体操）の講師・支援・補助です。



＜安全ボランティア＞は週一回の集団下校時の見守り安全パトロールの他、地区の方々には機会あるごとに、買い物をする時間や犬の散歩の時間、新聞配達の区域などで子どもたちを意識して見守っていただくようお願いしています。その他、校外学習時の安全確保のための引率・付き添いボランティアも行なっています。

＜環境ボランティア＞は主にシルバー世代の方々に、雪囲いや樹木の剪定・管理支援や、学校畠の管理や作物の植え付け、収穫時の指導・支援をお願いしています。畠の肥料や苗、作業に必要な道具等もボランティアで提供してくれます。



得られた成果

- ・コース別学習等への教育ボランティア導入により、難しい問題にもチャレンジさせることによって学力も向上しました。
- ・学級に教育ボランティアが入ることによって、教職員の意識が変化しています。
- ・校内に＜ボランティア室＞を設けたことにより、学校側でも雰囲気を和らげられるように対応できるので、地域の方々も気軽に学校に足を運べるようになりました。

今後の課題と展望

- ・学力テストの結果で、課題となっている部分の対応について、ゲストティーチャーや教育ボランティアの活用をさらに図りたいと考えます。
- ・地域のシルバー世代の方々にも学校支援に対しての協力をもっと得ていきたいと思っています。

人づくりを目指す東通村

～学校・地域が一体となって～



東通村東通小中学校 学校支援地域本部／東通中学校 コーディネーター：森山 文敏

学校や地域の概要

東通中学校は、平成20年4月1日に同村にあった北部中学校、小田野沢中学校、南部中学校の3校が統合し、新設校としてスタートを切りました。また、平成21年4月には東通小学校と校舎が接続し、施設一体型の利点を生かした小中一貫校としての教育推進に学校・保護者・地域が一体となって取り組んでいます。

地域の状況は、専業の農漁業だけでなく農林業、漁業、公務員、鉱業従事社員、肉牛飼育、商業、原発関係、むつ市への就労、出稼ぎ等となっています。

学区にある29の各集落では、昔からの伝統芸能である能舞、神楽、手踊りを子供会等を通して伝承しています。

わが校のボランティア活動

東通中学校では、保護者や地域住民の方々にボランティア活動の支援を呼びかけて事業を展開しています。

小中一貫教育が本格実施された今年度は、中学校にある部活動が、小学校にも新設され、指導の連続性が図られるようになりました。そのような中、地域のボランティアが先生方と一緒に部活動指導（野球・バレーボール・ソフトテニス・陸上・総合文化部）に取り組んでいるため、コーディネーターとして常に足を運ぶよう心がけています。

また、小学校とともにPTA活動と連携しながら、学校行事支援（地域クリーン作戦）、生徒の安全確保支援（学区危険箇所の看板設置作業）、学習支援（東通科における地域での活動）に取り組んでいます。地域から、学校が遠く離れていますが、統合前のように地域と学校が一体となって子どもたちを育む体制を構築しようという意識で活動に励んでいます。

コーディネートの実際

小中一貫教育が本格実施された今年度は、小学校コーディネーターとも連携を図りながら、コーディネート業務を進めています。合同実施する行事や中学校独自の活動など、学校の年間計画を参考にしながら、ニーズに応じた支援ができるよう努めています。また、私には学校現場や競技者・指導者の経験がありますので、その視点を生かそうという思いもあります。指導者はみな、子どもたちを伸ばしたいという思いはありますが、その過程や方法、考え方は様々です。そのため、ボランティアをする側の立場や気持ち、指導者としてのニーズなど、活動の様子を観察したり、積極的なコミュニケーションの中で、それぞれの立場を理解し、より円滑な事業展開と今後も継続していくための体制整備を図っていこうと取り組んでいます。

担当者・コーディネーターから一言

地域には、たくさんの人材がいます。支援依頼すると、快く引き受けてくれる方が多い地域もあります。そのような方にも、登録への呼びかけをしながら、人材バンク登録者数を増やし、学校と地域が一体となって取り組む環境づくりをしていきたいです。

わが校の主な活動

主な活動として、部活動では、野球・バレーボール・陸上ソフトテニスの各部で外部指導者が指導にあたり、基本の技術指導を中心に行ってています。基本技術の指導から、競技によってはポジション別指導、大会時の支援（送迎・審判補助）など、少しづつ体制整備を図っています。また、今年度は総合文化部で、陶芸に挑戦しました。放課後子ども教室内で実施している土曜スクール指導者に依頼し、生徒に粘土製作・釉薬塗り・色つけ作業を指導しました。



学校行事活動では、クリーン作戦（小中合同）等、各学年の役員を中心に他の保護者にも呼びかけを行い学校と保護者、ボランティアの方々が一体となって取り組みを行っています。



学習支援活動では、東通村を学び、国際的視野から村の未来を考え、発表、行動できる力を育てる東通学の中心となる教科（東通科）で、地域文化や歴史、産業、環境等を調べ・追求するために、地域の方々から学ぶ機会が設定されています。現在は、その人材の紹介や橋渡し役が、コーディネーターに求められています。

得られた成果

部活動支援においても、学習支援（東通科）においても、専門的な知識を得たり、指導を受けられるため、生徒にとっては広く知り、深く学ぶ機会となっています。また、先生方とは違った雰囲気で接することが、興味や関心の効果を上げ、意欲的に取り組む姿が見られています。

学校行事支援では、今年度、小中合同行事として、地域クリーン作戦を実施しました。子どもたちが自分たちの地域に戻り、ゴミ拾い活動をしましたが、29集落が点在するため、学校教員だけでは安全面でも十分ではありません。そのため、地域のボランティアの協力を得ながら活動を展開しました。これにより、地域から学校が離れた統合後も、子どもたちがそれぞれの地域で活動できる機会を得ることが出来ました。

これらも含め、ボランティアの方々からは、「生徒を大切に育てようとする気持ちがわいてきます。」や「自分の得意とする力が發揮できるので楽しい。」という言葉も聞かれ、充実した時間にもなっているようです。また、学校にとっても、教育活動の幅が広がったり、子どもたちの伸びにもつながっているようです。

今後の課題と展望

村には、学校が地域にあったときのように、子どもたちのためにできることを支援したいと思っている方々がいます。そのような方々を有効に活用できる取り組みや計画ができるよう、学校と地域のコーディネートをしていきたいと考えています。

東通の子は東通で育てる

～学校と地域の架け橋として～



東通村東通小中学校 学校支援地域本部／東通小学校 コーディネーター：館 優子

学校や地域の概要

平成17年度に村内に11校あった小学校を統合し東通小学校が開校しました。さらに、平成21年度に村内5校の小学校を東通小学校へ吸収統合。村内に小・中学校が1校ずつになったことを受け、東通村の小中一貫教育が本格的にスタートしました。

学区は、東西に約15km、南北に約30km、面積は約300km²といへん広く、学区内には29の地域が点在しています。本校は学区が広いため、児童は中学生とともに15台のスクールバスで通学しています。

わが校のボランティア活動

東通小学校では、保護者や地域住民の方々が、ボランティア活動の支援者として事業を開いています。

平成19年度から、人材バンクを作成し、現在登録者数約50名です。登録者全員を活用するまでには至っていないのが現状ではあるものの、PTA活動とも連携しながら学校の要望に応じた形で、学校行事支援（運動会準備作業・学芸会バザーの運営・地域クリーン作戦）、校内環境整備支援（花壇整備作業）、子どもの安全確保支援（登下校交通安全指導・学区危険箇所の看板設置作業）、学習支援（東通科における地域での活動）に取り組んでいます。

また、4月より統合による児童数増に伴い、3つの部活動が新設されました。「東通の子は東通で育てる」の一つとして、外部指導者登録制度を導入し、部活動（野球7名・ソフトテニス4名・バスケットボール3名・陸上1名・バレーボール1名）で教職員とともに指導をしながら、効率的な練習を可能にしたり、少人数指導では行き届かないであろう安全管理面でも大きな力を発揮しています。

コーディネートの実際

はじめての業務で難しさもあります。しかし、コーディネーターとは何かを考えながら、学校と地域の架け橋となるべく働きをしようとして取り組んでいます。

そのためにも、情報のアンテナを張り巡らせながら、これまで実践してきたこと以外でも、ボランティア活動できることはないかを職員との情報交換（気軽な日常会話等からも）でも得るようにしています。また、活動時はボランティアにも進んで話しかけたり、毎日来る外部指導者のところにも足を運ぶようにし、学校のニーズとボランティアの思いを繋ぐようにしたいです。

担当者・コーディネーターから一言

今年度、統合により、地域から学校が遠くなりました。これまでのような連携や支援が難しいことは十分予想されます。しかし、だからこそ、地域連携を構築し、基盤を整備することが求められます。未来を担う子どもたちを育むためにも、学校と地域の架け橋になっていきたいです。

わが校の主な活動

今年度から、外部指導者を導入した部活動支援がスタートしました。野球部、ソフトテニス部、陸上部、ミニバスケットボール部のそれぞれに配置され、無理をせず、都合に合わせて支援する体制になっています。活動例として、ソフトテニス部ではフォア練習の球出しや、ホアストローク、バックストロークの指導、ゲームの進め方指導など幅広く支援・指導をし、テニス経験のないテニス部教員も練習内容を学ぶ絶好の機会となっています。



大会や練習試合では、率先して審判を引き受けってくれます。そのため、部活動指導教員が、子どもたちの指導に費やす時間が拡充されました。また、試合後の練習では専門性を生かした

観点及び反省から、技能に応じたきめ細かなアドバイスがあり、大変効果的で一人一人の伸びにもつながっています。



安全確保支援での「学区危険箇所への看板設置作業」です。統合により、学区が広がったため保護者アンケートとともに、危険箇所を調査。学校からの要望で、PTAの校外指導部員及びボランティアで各地域に看板を設置してきました。

得られた成果

部活動支援では、直接、外部指導者とふれ合う場面が多いいため、子どもたちにとっては、地域の方と話す機会が増え、親しみやすさが出てきています。また、個に応じた指導やアドバイスによる技術向上が、一人一人の活動意欲を高めています。さらに、これまでよりも指導人数が増えたことにより、グループ別や学年別等、多様な練習パターンが可能になり、バス通学という限られた時間内でも効率的な練習ができます。

ボランティアにとっては、地域に学校があったときのように、子どもたちに指導をすることで、「元気をもらっている。」という言葉も聞かれ、開かれた学校という意識も出てきているようです。

今後の課題と展望

部活動支援では、指導者によって様々な考え方があります。指導者会議や打合せの時間を定期的に取り入れることで、それぞれの思いを生かしたり、実施日の確認をしっかり連絡できるようにしていきたいです。



下北地区

東
通
村

輝け佐井っ子

～よく学び、よく遊び 元気な子に成長するように～



佐井村学校支援地域本部 担当者：浜村ゆかり／佐井小学校 コーディネーター：三戸 良江

学校や地域の概要

学校支援地域本部が設置されている佐井小学校は、全校児童105名、「よく学び、やさしい子、元気な子」を目標としPTAや地域の連携を醸成するとともに、教育力向上を目指し地域全体で育む環境を整え子どもたちの育成に励んでいます

わが校のボランティア活動

校外学習の補助、定着時間のプリントの丸つけ、水泳教室の補助、家庭科の補助、図書台帳のパソコンへの打ち込み、校舎周辺環境整備、運動会、学習発表会の準備作業、学習発表会当日の手伝い（低学年着付け、放送、照明他）、朝読書、紙芝居、本の読み聞かせなど

コーディネートの実際

※コーディネーターの工夫

休み時間や職員休憩時には必ず職員室で待機し、依頼された内容にすぐ応えるようにしています。前もって計画されているサポート内容は時間を取り、先生と支援員を含め打合せをしています。普段から先生方とコミュニケーションをとり、その中でも支援に繋がる活動を見つけるようにしています。

※本校のコーディネイトのポイントあるいは特徴など

先生方と常に情報交換をし、各担任から直接活動内容を依頼してもらい、待機室にいる支援員にできるできないかを即確認するようにしています。

活動が無い時も図書台帳の打ち込みをしてもらいつながら、別の支援が入った場合でもすぐに対応できるようにしています。

担当者・コーディネーターから一言

学校側として、今後もこの事業を継続して欲しいという要望があるので、地域の住民や、支援事業関係者の協力がさらに必要となります。

今後、地域で行う事業として基盤をつくり、地域全体で学校を支援しながら、子どもたちの成長の手助けができるようにしていきたいと考えています。

わが校の主な活動

【1】校外学習の補助

4学年の総合で町探検に行ってきました。

交通標識についてどうしていろんな標識や横断歩道があるのかを調べ自分たちの目で確かめ、ノートにまとめてみました。



【2】水泳教室補助

大間町のウイングにて1、2年水泳教室。

初めドキドキしながらもビート板や 色んな遊具を使って楽しんでいました。

水とも仲良しになったようです。



得られた成果

(子どもたちにとって)

校外行事では、児童の安全確保と校外での活動の不安を取り除くことができました。授業では、一人一人に指導が行き届き先生の他に指導してくれる人がいることにより指導の待ち時間なくすことができました。先生の他に地域の人と関わりを持ち、いつもとは違う授業の楽しみ方ができました。

(学校にとって)

児童の様子を指導者側と違った角度から観察してもらい、児童を多面的にとらえることができました。

生徒と関わる時間がこれまで授業や行事等の準備であまり取れなかつたが、支援員が手伝うことにより関わる時間ができました。

(ボランティアにとって)

子どもたち一人ひとりに指導が行き届きました。各学習や行事に関わることによって先生や生徒と共に達成感が得られました。

先生方や生徒から感謝の言葉をもらうことで支援の充実につながりました。



今後の課題と展望

(出てきた課題とその対策)

- ・支援員を確保するために、この事業を住民に広報やポスターで知らせることが必要。
学校側にもっと色々な支援を要望してもらい、住民に周知しながら、ボランティアの協力を求めることが必要だと考えます。

(今後につなげたいこと)

- ・地域と学校をつないでくれる強力なパイプ役のサポーターは重要な役割を果たすので、今後も様々な形で地域に事業内容を理解してもらい、定着していくようにしていきたいと考えています。